

制服は必要か「肯定側の立論」

授業者 今日は、台本ディベートを行います。論題は「制服は必要か」です。肯定側チームが、佐藤さん、齋藤君、鈴木さん、田中君の4人です。否定側チームが、高橋さん、阿部君、吉田さん、伊藤君の4人です。それでは、司会の酒井さん、よろしくお願いします。

司会 それでは、ルールにしたがって、台本ディベートを始めます。最初に、肯定側の立論を始めてください。時間は2分です。

肯定側の立論

これから「制服は必要か」というテーマについて、「必要である」という肯定側の立論を始めます。私たち肯定側のメンバーは、佐藤、齋藤、鈴木、そして私、田中です。

なぜ私たちが「制服は必要である」と考えるのか、その理由を話します。まず、私たちは他の班の人たちにアンケートをとりました。その質問事項は「制服は必要か」「その理由」「制服に対する不満」「制服のよい点」の4つについてです。その結果、「制服は必要である」と大部分の人が答えました。その理由は「心がひきしまる」「非行防止につながる」「学校の象徴である」「学生らしい姿を保つことができる」などでした。「制服に対する不満」については、「活動的でない」という回答もありましたが、運動するときは運動着があるので、これは解消されます。また、「その日の天気や温度、気分によって調節することができない」「個性的でない」「不衛生」などの不満がありましたが、制服には夏服、冬服とがあり、着分けることができます。気分というのは下着で調節できます。ですから、特に問題はありません。「個性」は他のことではつきすればいいし、「不衛生」は、よく洗濯して清潔にすればいいのです。

反対に、「制服のよい点」としては「私服のように毎日選ぶのに苦労しなくていい」「みんな同じ服だから気兼ねしないですむ」「私服を選ぶ時間だけ多く眠れる」などの意見がありました。

私服の欠点は、学校帰りに平気でお店に寄ったり遊んだり、だらしがなく、しまりがない生活になりやすいところです。

以上の理由から、私服は学校に適した服装ではない、制服こそ学生らしい服装、学校に合った服装と私たちは考えます。

これで、「制服は必要である」という肯定側の立論を終わります。

司会 ありがとうございました。時間は1分45秒でした。では、否定側の立論を始めてください。時間は同じく2分です。